

# メンテナンス

オーイ！皆んな元気でやってるか。オレの好きなバイクのシーズンがやってきた！見るも鮮やかなライディングフォームで、華麗なまでに美しく、そして流れるような軽やかさで自由自在にバイクを操り、風とお友達になるのだ…。ナンテ言うと、むちゃくちゃカッコイイけど「信号待ち」はイカン！絶対に許せん！なぜかって？理由はすごく簡単だ。成田さんは短足のため、停車すると、足が地面に届かないのだよ。アハハハハ。

さて、この愛すべき私のバイクの調子がいまいち良くない。高回転域の反応が遅いんだよな。そこでバイク屋さんにチューニングを依頼してみた。「改良するのにどれくらい、お金がかかるのかなあ？」って聞いてみると、バイク屋のオヤジが憎らしいヤツでさあ…「そりゃ予算しだいだ。1万円ならこれくらいで、3万円ならここまでするし、10万円出してくれたら、ありったけの知恵を絞ってチューニングしてやるよ」だってさ。バカヤロウ！常識的なことを言え！ってんだよなあ…。そうこうしているうちに、今度はバイク屋のオヤジがオレに話しかけてきた。「成田さんって印刷屋だろ。名刺を100枚つくってもらおうと、いくらくらいかかるんだ？」オーッ！仕返しをしてやる絶好のチャンス！「オヤジさん、そりゃ予算しだいだ。1千円だったら、オレの手書きをコピーしてやるし、100万円出すなら1枚1枚丁寧に刷って、1個ずつダイヤモンドをくっつけてやるよ」。

## ●タイム・イズ・マネー

「時は金なり」っていう言葉があるだろう。新幹線で東京まで行くと速いけど料金が低い。

安く行こうと思えばハイウェイバスっていう手があるけど、たっぶり時間がかかっちゃうよな。まさに「時間」は「金」なのだ。しかし、お金はなくなってもまた稼げば良いけど「時間」ってヤツは、どんな手段を使っても二度と戻ってこない。だから「時間を有効に使う」ってことが何より大切なのだ…。でもね、このことを誤解しちゃイカンよ。

忙しい印刷屋さんになると、仕事の量が多いから「印刷機を停止させて、機械を整備する時間があったらいい」なんていうところが、たまにあるようだけど、これは大きな間違いだ…。例えば、納期ぎりぎりの仕事をしていて、その一番大切なときに整備不良のおかげで機械にトラブルが発生し、停止してしまったとしたら、悔やんでも悔やみ切れないほどの損害が出ることになる。忙しいとき、絶対に止められないときの30分と、初めから予定を組んで停止させる3時間とでは価値が違う。当然、止められないときの30分の方が大切だよな。その30分を死守するために3時間の整備時間を絞り出す。安定した安全な作業のために時間をさいて整備の時間をつくる。これも立派な「タイム・イズ・マネー」なんだよ。

## ●半日が10分に

バイク屋のオヤジさんのように1万円で済むところを10万円かけることができるような、そんな余裕をたっぶりもたせた整備ができるの良いね。つまりね、1時間で済む整備に3時間以上の時間をとっちゃう。「1時間ではできないことを、あわててやるのと3時間もかけてやるのでは、その仕上がりに雲泥の差が出てくる」

っていう話は、バイク屋さんの例を出すまでもなく、簡単に理解できることだろう。そして、その余裕の時間があれば、あれやこれやと他の整備をする精神的な余裕も生まれてくるってものだよな。

半年に一度しかない整備があるとしよう。半年に一度しかない箇所だから、整備するにしても随分時間がかかっちゃうよね。でも、その箇所に毎週毎週、少しずつ手を加えてやる余裕があったら、とっても楽な整備になっちゃうんだよ。例えば、湿し水の冷却水槽なんか良い例だね。手を加えずに半年間も放っておくと、汚れも大変なものになっちゃう。溶け出したインキが水槽の内部を真っ黒けにしてしまって、それを綺麗にしようとするだけで、すぐに1時間が過ぎてしまう。水槽の底にたまったスプレーパウダーを取り除くのにまた1時間。印刷機の水舟を掃除するのに1時間。水を入れ替えるのに1時間。ネ、これだけのことを完璧にしようとするだけで、もう3～4時間。半日がつぶれちゃうだろ。「水槽の掃除をすると半日つぶれちゃうからなあ」なんて言っていると、よけい面倒くさくなっちゃうって、やる気がなくなっちゃうよな。ところがだ、これを毎週毎週、週末にやっていると、すっごく楽にできちゃうんだぜ。たった1週間だから汚れもほとんど出ていないし、水舟の汚れも大したことはない。事実オレは毎週やってるんだけど、全部掃除するのにだいたい10分ってとこかな。

## ●湿し水も大切に

オフセット印刷は、水の作用でインキの着く部分と着かない部分を区別して、絵柄をつくり

整備時間  
冷却水槽  
水舟  
オーバーフロー

出すって印刷方法だよな。そのとき、その大切な水が汚れていたり、不純物がたくさん混ざったりしたら、どうだ？本当に綺麗な印刷なんてできるワケないよな。例えば、インキはどう？インキの乾いたものが混ざったり、カスだらけのインキで良いものが刷れるか？絶対に無理だよな。インキのヘラだってそうだ。インキが着いたヘラを間違っただけで床に落としてしまったとしたら、決してそのまま使わないだろ。ゴミや砂が着いたヘラで触ったインキなんて危なくて使えないから、ヘラを洗うだろ。だったら水だって同じなんだよ。真っ黒けで不純物がいっぱい混ざってしまった水では刷れないんだ。オレの機械の水槽を見せてあげようか。いつでも、どんなときでも60ℓタンクの底が透けて見えるぜ…。冷却水槽のメンテナンスを怠ると一番怖いのがホースの詰まり。循環ホースの中に溶けたインキや油分が蓄積されて、ついには流れなくなっちゃう。水舟から湿し水が溢れ出して、あたりを水浸しにしてしまう、オーバーフローってヤツだね。こんなことになるのは最悪だぞ。

メンテナンスっていうのは、機械と名の付く全てのものに必ず必要なんだ。すごい発達をみせた自動車だってそう。ほとんど手をかけてやる必要がないようにみえるけど「車検」っていう大きなメンテナンスがあるもんね。ではまた！  
(1992年5月号掲載)